

2019 年度動物慰霊式

科学分析支援センター 古舘 宏之

令和元年度埼玉大学実験動物慰霊式が10月30日(水)14時40分から理学部2号館第一会議室において開催されました。主催は埼玉大学、そして科学分析支援センターが動物慰霊式の次第を取り仕切りました。学生実習や卒業研究、そして研究目的で実験動物を使用している方々、研究機構に所属する教職員、そして動物の御霊に感謝し安らかな眠りを祈りたいという方々の計89名が参加しました。

式は、古舘宏之助教(科学分析支援センター、埼玉大学動物実験委員会委員)の司会により進められました。塚原伸治准教授(埼玉大学動物実験委員会委員長)による開式のことばを頂きました。開式のことばでは、科学の発展における動物実験の重要性とともに、動物実験がおかれている内外の状況について説明されました。実験動物の尊厳を守るために、あらためて3Rの原則を遵守することの意義についてお話がありました。続いて動物飼育室の利用者を代表して小林哲也教授(理工学研究科)より慰霊のことばが捧げられました。実験動物の尊い犠牲の上で、生命科学の教育と研究が成り立っていることを自覚し、犠牲となった動物への慈しみや感謝の気持ちを持って、3Rの原則を遵守することの必要性を述べました。さらに、動物犠牲のうえで得られた貴重な情報を、生命科学の発展や優秀な人材の育成として社会に還元することを誓いました。次に参加者全員によって花が捧げられ、黙祷することによって、実験動物の御霊に対する深い感謝と安らかな眠りを祈りました。最後に三浦勝清・科学分析支援センター長のことばによって式が閉じられました。

動物慰霊式の開催を通じて、教職員・学生、研究者の方々が改めて動物愛護について考えていただき、3Rの原則を遵守し、適正な動物実験の実施に努めて頂く様に願います。また、動物実験についての動向は常に変化しております。科学分析支援センターは埼玉大学動物実験委員会と協力して、最新の情報収集をするとともに、適切な動物実験と動物の飼養が行われるように今後も情報発信を継続致します。

